

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成18年7月20日(2006.7.20)

【公開番号】特開2005-335274(P2005-335274A)

【公開日】平成17年12月8日(2005.12.8)

【年通号数】公開・登録公報2005-048

【出願番号】特願2004-158936(P2004-158936)

【国際特許分類】

B 3 2 B 5/18 (2006.01)

B 3 2 B 33/00 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 5/18

B 3 2 B 33/00

【手続補正書】

【提出日】平成18年6月7日(2006.6.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

〔製造例1〕

線形低密度ポリエチレンLLDPE1(三井化学(株)製、商品名:ウルトゼックス2021L、密度:0.920g/cm³、メルトインデックス(MI):2.1g/10min)38重量部、分岐状低密度ポリエチレンLLDPE(三井化学(株)製、商品名ミラソン27、密度:0.918g/cm³、MI:2.0g/10min)2重量部に対し、充填剤として炭酸カルシウムCaCO₃((株)同和カルファイン製、商品名:SST-40、平均粒子径:1.1μm)60重量部、親水性付与剤A(松本油脂(株)製、商品名:TB-202、ポリエチレングリコール脂肪酸エステル)3重量部をタンブラーミキサーにて混合した後、タンデム型押出機を用いて200℃において均一に混練してペレット状に加工した。このペレットをTダイが装着された押出成形機を用いて、240℃において溶融製膜した後、70℃に加熱した予熱ロールと延伸ロールとの間で4.0倍の延伸倍率で機械方向に一軸延伸し、厚さ25μmの親水性多孔性フィルムを得た。そのフィルムの片面に、センターインプレッション型フレキソ印刷機により、インキとして大日精化(株)製ハイドリックSK293Cブルー(H)を大日精化(株)製インキ用溶剤ハイドリックSK No. 2で粘度を#3ザーンカップで20秒に調整して用いて、第1図のような印刷柄(網点印刷、50線/インチ、50%)の着色を施した。得られた多孔性フィルムのドライ時の全光線透過率、ウェット時の全光線透過率、剛性、親水性付与剤の移行、耐乾燥性、成形性を上記の方法により測定、評価した。得られた結果を表1に示す。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0054

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0054】

〔実施例1〕

製造例1で作製したフィルムの印刷した面の反対面に、色料を除いたインク成分(メジウム)として、大阪印刷インキ製造(株)製FPO-T-NWF(メジウムMT改)を大阪

印刷インキ製造（株）製インキ用溶剤の3番溶剤で粘度を#3ザーンカップで20秒に調整して用い、センターインプレッション型フレキソ印刷機により全面凸の版を用いてフィルム全面に印刷（塗布）した。得られた多層フィルムの評価結果を表1に示す。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0055】

〔実施例2～7、比較例1～2〕

線型低密度ポリエチレン、充填剤、親水性付与剤の配合割合（単位：重量部）、延伸倍率、並びにフィルム厚みを表1または表2に示すように変更した以外は、実施例1と同様にして多層フィルムを製造した。得られたフィルムの各特性を実施例1と同様にして測定、評価し、結果を表1、表2に示す。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

〔実施例8〕

実施例1で製作したフィルムの印刷面の上に、吸水性ポリマー型コート剤として、大阪印刷インキ製造（株）製EXP15078（吸水メジウム）とEXP15078（硬化剤）を100：1に混ぜたものを、センターインプレッション型フレキソ印刷機により、全面凸の版を用いてフィルム全面に印刷（塗布）した。得られた結果を表1に示す。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

〔実施例9〕

製造例1で得られた印刷前のフィルムの印刷面に、コロナ処理装置を用いて1kVでコロナ処理を施した以外は、実施例1と同じ方法で多層フィルムを得た。得られた結果を表1に示す。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0058

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0058】

[illegible]